

第56回建築士会全国大会 しまね大会紹介

4) 民家 3石見の民家

島根県の西部を大まかに石見地方と呼んでいます。当然江戸時代の藩は異なっていました。文化的にも西と東では異なります。言葉も違います。それぞれ独自の方言ですが、浜田の方に行けば広島言葉に近く、益田に行けば山口言葉に近くなります。人の気性も出雲に比べ石見はさっぱりしているとも言います。西部の中心地は浜田と益田になります。浜田は城下町であり、水揚げの多い港を抱えています。明治5年に大地震に見舞われ、揺れと火災によって市中のほとんどが壊滅しました。地震によって隆起した海岸もありますが、落ち着いた街です。

益田は中世において益田氏が支配した町として栄えていました。僧雪舟が作った庭園がニヶ寺に残り、いつでも拝観できるようになっています。石見部には古い民家がいくつも残っていますが、中にも巨大な民家があります。網元の矢富家、庄屋の美濃地家は圧巻です。美濃地家は近年修復されました。瓦ぶきの下屋根を「シコロ」と呼んだりします。神棚のしめ縄の張り方などに独特のものがあります。



俵家(浜田)



小河家(益田)



美濃地家(益田市匹見)正面



美濃地家側面と内部の神棚



矢富家(益田 津田)



日本海に面した網元の家